

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論 I (成人看護)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	岡本明美、青山美紀子、千葉恵子、松本幸枝			
授業概要	慢性的な健康問題のある青年期～高齢期にある人とその家族を看護の対象と捉え、健康問題の予防、発症期、安定期、終末期における身体的、心理社会的側面を理解し、慢性看護を支える理論と慢性看護で用いられる研究方法やその視点について修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題をもつ人と家族をとりまく社会状況と問題の多様性を説明できる。 2. 慢性的健康問題の発症から終末期に至るまでの看護に関する理論を修得し実践への適用について議論できる。 3. 慢性的健康問題のある人と家族への看護に関連する研究の方法や視点について説明できる。 			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	慢性疾患を持つ人と家族を取り巻く社会情勢と問題	岡本	
	2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	
	3	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	
	4	セルフケア理論の理解と活用	岡本	
	5	セルフケア理論の理解と活用	岡本	
	6	自己効力感の理解と活用	岡本	
	7	自己効力感の理解と活用	岡本	
	8	不確かさ理論の理解と活用	岡本	
	9	不確かさ理論の理解と活用	岡本	
	10	終末期にある人と家族への看護	千葉	
	11	終末期にある人と家族への看護	千葉	
	12	慢性疾患が急性増悪した人と家族への看護	松本	
	13	慢性疾患が急性増悪した人と家族への看護	松本	
	14	回復期リハビリテーションにおける看護	青山	
15	認知症のある人と家族への看護	青山		
教科書	特になし			
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド社、2010.			
評価方法・基準	プレゼンテーション(60%)、討議の参加状況(40%)で評価する。			
事前・事後学習	<p>事前学習：毎回の授業で、次回授業の事前学習課題を提示する。各自課題に取り組み、プレゼンテーション用資料を作成する。</p> <p>事後学習：疑問点を整理し、参考書等で調べることにより理解を深める。また、看護実践への適用について検討する。</p>			
備考	特になし			